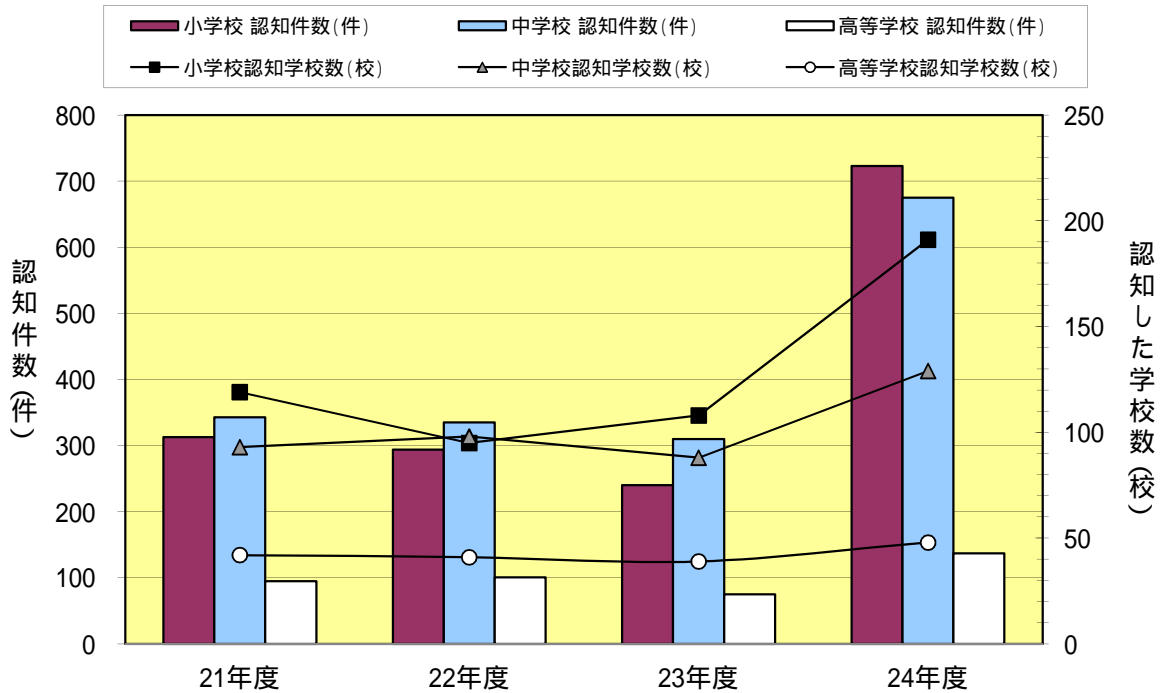


平成24年度上半期児童生徒のいじめの状況について

教学指導課心の支援室

1 校種別認知件数及び認知した学校数の推移



		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	(構成比%)	
上半期	小学校	認知した学校数(校)	119	95	108	191	(51.1)	
		認知件数(件)	313	294	240	723		
	中学校	認知した学校数(校)	93	98	88	129	(69.0)	
		認知件数(件)	343	335	310	675		
	高等学校	認知した学校数(校)	42	41	39	48	(45.7)	
		認知件数(件)	95	101	75	137		
特別支援学校	認知した学校数(校)	1	1	1	5	(26.3)		
	認知件数(件)	1	1	1	19			
	合計	認知した学校数(校)	255	235	236	373	(54.5)	
		認知件数(件)	752	731	626	1,554		
年度間	小学校	認知した学校数(校)	151	151	140	-		
		認知件数(件)	411	412	335	-		
	中学校	認知した学校数(校)	113	113	99	-		
		認知件数(件)	504	485	448	-		
	高等学校	認知した学校数(校)	56	53	54	-		
		認知件数(件)	138	168	130	-		
	特別支援学校	認知した学校数(校)	2	2	1	-		
		認知件数(件)	2	2	1	-		
		合計	認知した学校数(校)	322	319	294	-	
			認知件数(件)	1,055	1,067	914	-	

前年度同期と比較して、いじめの認知校数は約1.6倍、認知件数は約2.5倍、増加した。

- (注) 1 上半期調査対象校：県内公立小・中・高等学校・特別支援学校 (年度間は国立・私立を含む)
 2 構成比 = いじめを認知した学校数/学校数 × 100

2 いじめ認知件数の学年・男女別内訳

[単位:件]

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計				
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	計		
小学校	24	24	37	35	71	56	88	81	75	60	91	81	386	337	723		
中学校	176	169	115	99	59	57	/						350	325	675		
高等学校	53	22	29	11	18	4							0	0	100	37	137
特別支援学校	0	0	0	0	0	0							0	0	0	0	0
小学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中学部	3	0	0	0	0	0	/						3	0	3		
高等部	4	0	4	0	2	6							10	6	16		
合 計												849	705	1,554			

学年別では、男女とも学年が上がるにつれて増加する傾向があり、中学校1年生で最大となる。その後、高校3年生に向かって減少する。

3 いじめ発見のきっかけ (複数回答)

[単位:件、%]

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計 (構成比)
本人からの訴え	191	247	48	7	493 (31.7)
アンケート調査などの学校の取組により発見	196	148	20	0	364 (23.4)
学級担任が発見	220	116	15	11	362 (23.3)
本人の保護者からの訴え	173	161	23	1	358 (23.0)
他の児童生徒からの情報	55	42	11	0	108 (6.9)
学級担任以外の教職員が発見	24	38	17	1	80 (5.1)
他の保護者からの情報	27	18	10	0	55 (3.5)
養護教諭が発見	2	5	3	0	10 (0.6)
学校以外の関係機関からの情報	6	2	0	0	8 (0.5)
地域の住民からの情報	3	3	2	0	8 (0.5)
スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	2	2	1	0	5 (0.3)
その他(匿名による投書など)	2	2	0	0	4 (0.3)
計	901	784	150	20	1,855

いじめ発見のきっかけは、「本人からの訴え」、「アンケートなどの学校の取組」、「学級担任が発見」の順に多い。

(注) 構成比については、各区分における「いじめ認知件数の総数」に対する割合を示す。

4 いじめの態様 (複数回答)

[単位:件、%]

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計 (構成比)
ひやかしやからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	494	487	73	11	1,065 (68.5)
仲間はずれ、集団による無視をされる。	154	146	16	3	319 (20.5)
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	158	113	19	7	297 (19.1)
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	55	50	15	0	120 (7.7)
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	35	54	12	3	104 (6.7)
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	21	50	19	0	90 (5.8)
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	2	22	24	0	48 (3.1)
金品をたかられる。	2	8	10	2	22 (1.4)
その他	28	12	7	0	47 (3.0)
計	949	942	195	26	2,112

「ひやかしやからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。」が一番多く、構成比で3分の2以上を占める。小・中学校では、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。」や、「仲間はずれ、集団による無視をされる。」も多い。

(注) 構成比については、各区分における「いじめ認知件数の総数」に対する割合を示す。

5 課題と今後の対応

(1) 現状

平成24年度上半期の認知件数は、前年度と比較して約2.5倍に増加した。

- ・ 小学校で約3.0倍、中学校で約2.2倍、高校で約1.8倍

認知件数増加の要因

- ・ アンケート調査の実施をはじめ、今まで以上にきめ細かな実態把握に努めた結果
- ・ 軽微な事案についても、積極的にいじめの認知を行った結果

(2) 課題

いじめの早期発見と解消

いじめを許さない学校・学級づくり

パソコンや携帯電話を利用したいじめへの対応

(3) 今後の対応

いじめの未然防止と児童生徒のコミュニケーション能力の育成

- ・ 「いじめは絶対に許されない」という意識を深め、人権教育や道徳教育を推進
- ・ 発達段階の特徴を捉え、遊びや異年齢集団の交流などを通じた、いじめを許さない集団づくりと人間関係づくり
- ・ 携帯電話やインターネット利用における情報リテラシー及び情報モラル教育の推進

いじめの早期発見と迅速な対応のための指導體制、相談体制の充実

- ・ 各学校の実情に応じた、いじめ対応マニュアルの整備
- ・ 各学校における、児童生徒に対する実態把握のためのアンケート調査の実施
- ・ いじめ問題に関する職員研修の計画的な実施
- ・ いじめ問題への取組に関する定期的な点検の実施
- ・ いじめられている児童生徒を絶対に守り通すという意識のもと、家庭や、警察などの関係機関との連携強化
- ・ こどもの権利支援センターにおける教育相談体制の強化
- ・ いじめ対応への取組の充実を図るための手引や特色ある取組事例集の作成